

シドニー日本商工会議所 第64期(2021/2022年)定時総会
紀谷総領事挨拶
2021年7月30日(金)16:00～ オンライン会議

(冒頭)

在シドニー日本国総領事の紀谷でございます。

まず、2020/21年度の会頭を務められた毛利様、シドニーご着任早々から、コロナ規制が厳しい中、当地日本企業を代表して様々な会合でご活躍いただき、心から感謝申し上げます。

2021/22年度の会頭を担われる白井様、ブリスベンに続き当地ご在勤ということで、日豪ビジネスの幅広いご経験を生かし、新たなリーダーシップを発揮されることを期待しております。

そして、旧年度、新年度の役員の皆様、事務局の皆様、どうもありがとうございました。今後ともよろしくお願い申し上げます。

(新型コロナウイルスと日豪経済)

この一年、新型コロナウイルスの中にありながら、日豪関係の強化は、経済分野も含め、一層加速しています。

昨年11月、菅総理就任後に外国首脳として初めて訪日し、首脳会談を行ったのは豪州のモリソン首相でした。

本年6月の英国コーンウォールでのG7サミットでも、日豪首脳会談が行われました。「技術を通じた脱炭素化に関する日豪パートナーシップ」を発表し、日豪経済関係を官民一体となって推進させていく重要性を確認しました。

今月15日には日豪経済閣僚対話が開催され、通商分野やエネルギー分野における日豪連携が議論されるなど、具体的な取組が進んでいます。

ここNSW州では、昨年11月、ベレジクリアン首相から日本企業向けに、シドニー大都市圏のプロジェクトと投資機会について直接発信するウェビナーが開催されました。州政府は本年3月にInvestment NSWという新組織を立ち上げ、今月中旬には駐日貿易投資上級代表を指名して、年内の駐日事務所設置に向けての準備を進めています。

豪州のコロナ対応は世界の中でも特筆すべき成果を上げるものでした。これまで1年半、厳しい国境・州境規制などで感染の拡大を抑制し、大規模な経済対策を打ち出すことで、経済回復のかじ取りも着実に進めています。

今月に入り、豪州国家内閣は、コロナ対策移行国家計画を近日中に策定し、ワクチン接種割合の達成に応じて、国境規制の緩和を進めることを発表しました。豪州政府は、年内にワクチン接種を希望者全員に行うとの目標を掲げており、コロナ後の日豪間の往来再開・拡大もようやく見通せるようになってきました。

(シドニー日本商工会議所と日本企業への期待)

このような中で、シドニー日本商工会議所と、会員の日本企業の皆様の果たす役割は大きいと感じています。

シドニーは豪州最大の経済都市です。皆様は、当地にあつて日本と豪州のビジネスを結びつける、まさに立役者です。

コロナでオンライン会議やウェビナーが普及しましたが、だからこそ、当地から最新の動きを迅速に各方面に伝え、新たなビジネス機会を現実化できるのだと思います。

日豪ビジネスには、新たな可能性が広がっています。官民とも、現状に安住しては、将来はありません。

戦後の貿易の拡大、そして近年の M&A を中心とする投資の拡大を基盤に、これからは、グリーンやデジタルを成長の源泉に、様々な分野でイノベーションやスタートアップを活用することで、日豪ビジネスは更に大きく発展することができます。

当地の一つ一つの日本企業の皆様がその担い手となり、日豪双方、そして世界に豊かさと幸せをもたらすよう願っています。

このような日本企業を束ねるシドニー日本商工会議所も、当面はオンラインを最大限に活用して、個々の企業だけでは難しい交流の場を企画したり、政府機関への共同の働きかけを行うなど、政治や経済の変化に応じた有意義な活動を、これからも続けられることと思います。

(結び)

当地で日本政府を代表する在シドニー総領事として、シドニー日本商工会議所の皆様のさらなるご発展と一層のご活躍を祈念するとともに、皆様を全力でご支援することをお約束し、私のご挨拶とさせていただきます。

以上